

令和2年6月18日

消防庁における熱中症対策

1. 熱中症による救急搬送人員の調査と公表

(1) 調査の概要

全国の消防本部を調査対象とし、5月1日*を含む週の月曜日から9月30日を含む日曜日までの救急搬送人員調査を実施。

※令和2年は、今般の新型コロナウイルス感染症をめぐる現状等に鑑み調査の開始時期を延期し、6月1日から実施。

(2) 調査結果の公表

調査結果は、週毎に速報値を「週報」として消防庁HPに公開するとともに、毎月確定値を「月報」として報道発表。その後、5~9月の状況を集計した資料も報道発表。

(3) データ提供

データは消防庁HPにおいて、Excel形式で提供。

【令和元年度の調査結果】(令和元年11月6日公表)

救急搬送人員 5~9月の合計 71,317人(うち死亡者数126人)

[参考] H30年度 95,137人(うち死亡者数160人)

2. 特設ホームページ「熱中症情報」等による予防のための普及啓発

(1) 熱中症による救急搬送人員(週報・月報)の内容を情報発信(再掲)

(2) 予防啓発コンテンツ

① 予防啓発ポスター

熱中症による緊急時には、ためらわずに救急車利用を呼びかけるポスターを作成・配布



予防啓発ポスター

② 予防啓発車両用シート

熱中症の予防啓発を目的とした車両用シートを作成・配付

③ 予防啓発ビデオ

熱中症予防のポイント等を説明した動画を作成(5分、15秒)

※令和2年は、人気キャラクターとコラボした新たな予防啓発動画を作成(予定)



予防啓発ビデオ

④ 予防啓発イラスト

「消太」を活用して熱中症予防を呼びかけるイラストを作成(30種類)

⑤ 予防広報メッセージ

移動車両等での広報に用いるメッセージを作成(20例)

※日本語を含めて4言語作成(日、英、中、韓)



予防啓発イラスト

⑥ 熱中症対策リーフレット

熱中症の予防法や対処法のポイントを記載

⑦ 熱中症予防啓発取組事例集

自治体における取組事例を紹介

⑧ ツイッターによる注意喚起(フォロワー数:約97万)



消防庁ツイッター

(3) 都道府県を通じ、消防本部に対して、積極的に熱中症の予防啓発を実施するよう求める事務連絡等を発出。

3. 訪日外国人に対する普及・啓発

(1) 熱中症による

訪日外国人のための救急車利用ガイド

急な病気やけがをしたときに、必要な情報を掲載(7言語)

(英、中繁・簡、韓、伊、仏、タイ)

(2) 予防広報メッセージの作成(3言語)(再掲)

(3) 予防普及啓発用リーフレットの作成(Summer in Japan) ※英語のみ



熱中症を予防して元気な夏を!



夏に向けて、熱中症になる人が増えてきます。
熱中症を知って、しっかり予防し、楽しい夏を過ごしましょう!



このリーフレットでは、熱中症の症状や応急手当を紹介しています。



救急車を呼んで、一刻も早く病院へ行く必要のある状態や、症状についても紹介しています。当てはまる場合は、急いで119番しましょう。

※消防庁が作成した全国版救急受診アプリ「Q助」や「救急利用リーフレット」も合わせてご覧ください。(下記のQRコードをスマートフォンなどで読み取ることで、簡単に接続できます)



Q助サイト



救急車利用リーフレット



<https://www.fdma.go.jp/>



熱中症とは?

温度や湿度が高い中で、体内の水分や塩分(ナトリウムなど)のバランスが崩れ、体温の調節機能が働かなくなり、体温上昇、めまい、体のだるさ、ひどいときには、けいれんや意識の異常など、様々な障害をおこす症状のことです。

家の中でじっとしていても室温や湿度が高いために、体から熱が逃げにくく熱中症になる場合がありますので、注意が必要です。

熱中症の分類と対処方法

重症度	症状	対処	医療機関への受診
↓	<ul style="list-style-type: none"> めまい 立ちくらみ こむら返り 手足のしびれ 	<ul style="list-style-type: none"> 涼しい場所へ移動 安静 冷やした水分、塩分補給 	<ul style="list-style-type: none"> 症状が改善すれば受診の必要なし
	<ul style="list-style-type: none"> 頭痛 吐き気・吐いた 体がだるい 集中力や判断力の低下 	<ul style="list-style-type: none"> 涼しい場所へ移動 安静 衣類をゆるめ体を冷やす 十分な水分と塩分の補給 	<ul style="list-style-type: none"> 口から飲めない場合や、症状の改善が見られない場合は、受診が必要
	<ul style="list-style-type: none"> 意識障害(受答えや会話がおかしい) けいれん 運動障害(普段通りに歩けないなど) 体が熱い 	<ul style="list-style-type: none"> 涼しい場所へ移動 安静 衣類をゆるめ保冷剤などで冷やす 	<ul style="list-style-type: none"> 急いで救急車を要請

熱中症予防のポイント

- ☺ 部屋の温度をこまめにチェック!
(普段過ごす部屋には温度計を置くことをお奨めします)
- ☺ 室温28℃を超えないように、エアコンや扇風機を上手に使いましょう!
- ☺ のどが渇かなくてもこまめに水分補給!
- ☺ 外出の際は体を締めつけない涼しい服装で、日よけ対策も!
- ☺ 無理をせず、適度に休憩を!
- ☺ 日頃から栄養バランスの良い食事と体づくりを!



子供の特徴

汗腺などが未熟
地面の照り返しにより、高い温度にさらされやすい
体温調節機能が未熟なため、熱中症にかかりやすい

- ### 保護者の方へ
- お子さんの顔色や汗のかき方を十分に観察しましょう!
 - 喉の渇きに応じて水分補給や休憩をとらせましょう!
 - 日頃から外遊びをさせて、暑さに慣れさせましょう!
 - 外出時は熱のこもりやすい服を避けて、帽子をかぶりましょう!

高齢者の特徴

のどが渇きを感じにくい
汗をかきにくい
体温を下げるための体の反応が弱くなっており、自覚がないのに熱中症になる危険がある

- ### 熱中症にならないために
- 室温をこまめにチェックし、エアコンや扇風機を活用!
 - のどが渇かなくても水分補給をしましょう!
 - 1日1回汗をかく運動をしましょう!
 - 世話をする人は、普段と様子が変わるとしたら、ためらわずに医療機関を受診させましょう!

熱中症の応急手当

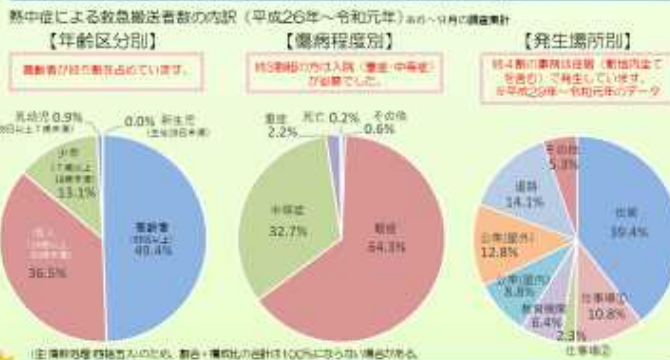
- 涼しい場所や日陰のある場所へ移動し、衣服を緩め、安静に寝かせる
- エアコンをつける、扇風機・うちわなどで風をあて、体を冷やす



持病をお持ちの方やお子さんは、かかりつけの医師とあらかじめ相談し、熱中症対策についてアドバイスをもらっておきましょう



- 熱中症による救急搬送者の年代別では、高齢者が約5割を占めています。また、全体の約3割超の方は入院が必要でした。
- 約4割の事例が住居(敷地内全ての箇所を含む)で発生しています。
※住居内: 道高工務現場、工場、作業現場、仕事場等。住居外: 田舎・森林、池・川等(湖・海・作業現場等) (河川敷のみ) 公園・野外、不特定者が出入りする場所(動物園等)、公共施設等、不特定者が出入りする場所(駅等)



熱中症により、毎年約5万人以上の方が救急搬送されています。平成30年は約9万5,000人の方が搬送され、平成20年の調査以来過去最多を記録しました。熱中症による救急搬送者増加の要因として、気温や湿度の上昇が関係していることが分かっています。特に、梅雨明け前後の暑さには、最も注意が必要です!!



消防庁では、HP上で熱中症の救急搬送状況調査の速報を週ごとに公表しています。URL: https://www.fdma.go.jp/neuter-topics/fekt-list0_2.html

最新 環境省「熱中症健康保護マニュアル」
http://www.wbsetenv.go.jp/heatstroke_manual.php

消防庁 FDMA <https://www.fdma.go.jp/>